

Jdwalker

Them get you...them got you

DDCG2002 / GME004

解説 by fuma75 (www.putemonthemap.com)

ここ数年のインディペンデント・ヒップホップ・シーンで最も大きな出来事と言えば、やはり ANTICON 勢の台頭が挙げられるだろう。私小説的な詩や叙情的なトラックなど、全く新しい価値観をヒップホップにもたらした彼らの音楽は、ナード・ラップ、エモ・ラップ、アート・ラップなど様々な造語をも定着させた。彼らが象徴するこうした価値観は、ヒップホップを愛してはいるものの、どこか違和感を拭い切れずにいた世界中のアーティスト/リスナーの熱狂的な支持を得る事に成功した。エレクトロニカやポスト・ロックと、インディペンデント・ヒップホップの距離を縮める事にも大きく貢献したと言っていいたいだろう。

さて、本作の主演である JD WALKER は、メイン州出身。多感なティーンエイジャー期に BILLY JOEL、PI XIES、JOHNNY CASH といったロック/パンク/カントリーから、ROB BASE & DJ EZ ROCK、BIG D ADDY KANE など初期のヒップホップに多大な影響を受けたという。彼も、ANTICON クルーを構成するアーティスト達の共通項「ヒップホップ不毛の辺境の地で育ったヒップホップ好き」に当てはまる訳だ。

「よくマウンテン・バイクに乗りながらフリースタイルをしてたよ。ヒップホップを聞き始めたと同時にラップをしようと決めたんだけ。」(JD WALKER)。

90年代初頭、地元のヒップホップ好き仲間だった SOLE、MOODSWING9 と共にグループ LIVE POETS を結成した彼は、LIVE POETS としての本格的な活動を開始する。96年には LIVE POETS としての唯一のアルバム "WHAT'S IT ALL ABOUT" を完成させるものの、殆ど流通する事はなかった。この "WHAT'S IT ALL ABOUT" や初期の SOLE の楽曲は、ビートもラップも当時の東海岸アンダーグラウンドの影響（特に SOLE のラップには BLACK MOON の BUCKSHOT からの影響を強く感ずる）を色濃く反映していて、彼らのルーツが垣間見れ興味深い。その後、時をおかずして SOLE と MOODSWING9 は西海岸へと渡り、JD WALKER 自身はメイン州に残る決断をしたため、結果的にグループは消滅してしまう訳だが、1人地元に残った結果なのだろうか、彼は徐々に音楽に対する情熱を失っていったと言う。

「音楽的な事は一つしなかった。曲も書かなかつたし、パフォーマンスもしなかった。自分は何者かって事が分からなくなつてたし、そもそもなんで音楽なんてやってるんだらうって自問自答したよ。」(JD WALKER)。

しかし 99年、音楽活動を再開させて間もなくデビュー作となる "BLEED THE RESERVOIR" を完成させる。この自主 CD-R アルバムは ATAK や FOOLBLOWN といったオンラインショップを中心に流通したものの、JD WALKER という名前を多くのリスナーが意識する事となるのは、その1年後にリリースされた THE LOGAN PROJECTS 名義でアルバム "CHARACTER ASSASSINATION" にてだろう。丁度、SOLE が西海岸へと渡った後に興したレーベル ANTICON が徐々に評判となりつつあった時期ということもあり、SOLE や ALIAS、MOODSWING9 が参加したこのアルバムはネット上で少なからず注目され、ドイツの HONG KONG レーベルから EP もリリースされるなど、JD WALKER という名前も「ANTICON 一派」という括りと共に広まっていった。2002年には、JD WALKER として初の正規リリースとなるミニ・アルバム "OUR CONDITION..." を発表。素朴なまでにひたすらヘヴィーなドラムス、メロディックで深遠なサンプル、怒りと悲しみを奥底に忍ばせたラップ。彼独自の音楽性はこの時点で確立されたと言えるのではないだろうか。

JD WALKER 名義では初のフル・アルバムとなる本作 "THEM GET YOU...THEM GOT YOU" は、正に「待望の」という冠が似合うアルバムとなっている。JD WALKER の深みのある声質はそれだけで魅力的だが、時に激しくオフビートでライミングしたかと思えば、味わいタツプリにフォーク・シンガーよろしく歌い上げる彼の姿からは、確かな存在感と独創性を感じ取る事が出来るし、ALIAS や SOLE の助けを借りながらも、多くのサウンド・プロダクションを彼自身が手掛けている点も特筆に価する。全編に渡って聴けるドラムスは相変わらずヘヴィーだが、エレクトロニカの柔軟さも兼ね備え、基本となるギター・グループはフォークとアメリカン・ロックの間を行き来し、随所に顔を出すシンセは 80'S ポップスとニューウェーブを渡り歩く。個人的なハイライトは、KOMADOSE クルーの巨漢ラッパー K-THE-I-??? 参加の "THEM GET YOU...THEM GOT YOU (PART 1)" だ。ゆったりと脈打つビートの上空を漂う美しいシンセが、失われた愛を歌う 2人のマシンガン・フロウとウツトリとするようなメロディのサビを最高の形で演出。アルバムを代表するベスト・トラックだ。

ANTICON が起こした大きな動きは、まるで池に投げ入れられた石が引き起こした波紋がその周りに投げられた小石による波紋で掻き消される様に、多くのフォロワーの出現で収束に向いつつあるように見える。それを予測してか、本家の面々は既にフォロワーの手の届かない場所に避難しつつある。JD WALKER は、本家との距離を保ちつつも圧倒的な質の高さによって波のぶつかり合いとは無縁の位置でマイペースな活動を続けている。そして、本作 "THEM GET YOU...THEM GOT YOU" は、波紋が収まった水面には何が残るのか、という疑問の一つの答えを示しているように思う。

最後に、日本盤オリジナルのジャケット・デザインを手掛けているのは、トロントのラッパー SELFHELP と結成したグループ BENDING MOUTH で知られる THESIS SAHIB。カナダ・ハリファックス出身の彼は、BENDING MOUTH のセルフ・タイトル・アルバムでデビュー後、"WARTIME THEME SONGS FOR THE MODERN EGO" と "THE SECRET ADVENTURES OF THESIS SAHIB (AND FRIENDS)" という 2枚のソロ・アルバムもリリースしているマルチ・アーティスト。一度見たら忘れないほど個性的な彼の画風は、このアルバムのパッケージとしての完成度を高めている。